

知っておきたい規則とルール

Question

県選手権大会準決勝で私が正審をしていたときのことで。前衛サイドを抜いた打球がベースライン付近に落ちインでした。相手ベースラインプレーヤーはまったく返球できる態勢ではなくポイントが決まりました。正審の私はインだと判定してコールはしませんでした。副審がアウトのサインをしたので、私はそのサインを見て「アウト」とコールしました。その後、打球したプレーヤーからインではないかと質問があったので、私はタイムをとり副審にボールの落下点の痕跡を確かめさせました。副審は落下点の痕跡を確認して、その場でインであることをサインで伝えましたので、私は双方のプレーヤーを審判台のところへ呼んでインであることを伝え、副審がミスジャッジをしたので、ノーカウントとしてプレーを再開すると伝えて、「ノーカウント」とコールしプレーを再開しました。

いままで正審を何度となく経験しましたが、このようなことは初めてだったので、この対処でよかったのかどうかご教示ください。

Answer

インプレーにおいて、アンパイヤーが誤ってインプレーを停止するサイン又はコールをした場合は、直ちにプレーを中断させる。なお、副審が二重の誤り(判定区分と判定)をした場合には、「タイム」とコールする。しかる後、「ノータイム」、「コレクション」正しい判定(レット、ノーカウント、あるいは判定の変更がある場合はイン)をコールし、プレーを再開する。

県選手権大会準決勝の審判ということで、正審も副審もかなりの緊張とプレッシャーを感じておられたのではないかと推察します。日頃からソフトテニスを楽しみソフトテニスハンドブックに精通していても、緊張とプレッシャーの中では、平常心を保つことは難しく時々上手くできないこともあるようですね。

さて、アンパイヤーの判定区分では、ベースラインに関しては正審の判定区分ですね。このベースラインを副審が誤って判定した場合は、直ちにプレーを中断させなければなりません。ご質問では副審が判定区分を誤って、なおかつ判定も誤っています。いわゆる二重の誤りを犯しているので、このような場合には、正審は「アウト」とコールするのではなく「タイム」とコールしてインプレーを中断させることになっています。この場合において、サイン又はコールがプレーに支障を与えたのであればノーカウントとして、第1サービスから再開することになり

ますが、ご質問の内容ではネットプレーヤーのサイドを抜いて打ち返す事が出来ない状態で終わっています。この打ち返す事が出来ない場合の副審の誤った判定(サイン又はコール)が、その後のプレーに支障を与えていないのでノーカウントにするのではなく、「コレクション、イン」とコールして判定の訂正を行うことになりますね。その後「ノータイム」、「コレクション」とコールしてポイントカウントをコールし再開することが正しい対処になります。また、副審については、正審に言われ痕跡を確認に行き、その場でサインをして判定をしています。これは良くないやり方です。正審から依頼されたので、痕跡を確認してその資料を正審に報告し、正審から再度判定の結果を通告するのが正しいやり方です。

平素からソフトテニスハンドブックを熟読され、理解を深めて大会における審判時にその運用が適切にできるよう願っています。

ところで、2007年4月から長年にわたって、機関誌「ソフトテニス」にワンポイントレッスンとして、競技規則、審判規則、大会運営規則に関する問題をQ & A形式で掲載して参りましたが、すでに100例にもおよび殆ど出尽くした感があります。従いまして、2016年3月号をもって休載することとなりました。

これまでのご投稿やご愛読に感謝して、心より御礼申し上げます。

【関連規則】

ソフトテニスハンドブック

審判規則

第14条 再判定

第15条 判定の誤り

第16条 プレーの停止

ジュニア審判マニュアル

審判規則について

5.プレーヤーから質問があったときは?(再判定)

7.間違っってインプレーを止めさせるサインまたはコールをしたら?(プレーの停止)

